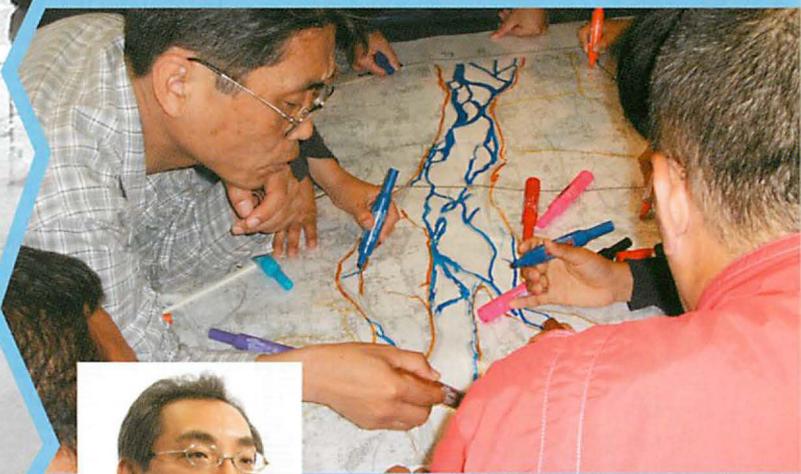


防災VIDEO

水害発生 その時!!

命を守る日頃の備え



監修

群馬大学工学部
片田敏孝教授

上映時間 22分 [C#3150]

ビデオ版 69,300円(本体 66,000円)



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

企画意図

川はあふれるものです。洪水を防ぐために治水が行われるのですが、完全な治水はありえません。100年に1度の集中豪雨は誰にも予測できないものなのです。「まさか自分のところが」という場所で深刻な水害は起こっています。それでは、命や財産を水害から守るためにはどうすれば良いのでしょうか。現在は行政の災害情報をはじめ、さまざまな情報を取得することが可能です。また、各自治体で作られている洪水ハザードマップなどを参考にして、自分の住む土地の地勢を知ることも大切です。しかし、最も重要なのは、さまざまな情報を自分のものとして使いこなし、どう行動に活かしていけるかという意識のあり方なのです。

内容

想定を超えた大雨などによる水害まで行政にまかせることはできない。2004年の集中豪雨で水害に見舞われた新潟県三条市の現地取材を交え『自分の身を守るのは自分自身』という自助の考え方が防災の基本であることを訴える。

まずは、気象庁が流す災害情報、注意報、警報の意味を理解すること。そして自らの判断で早めに避難することが重要である。具体的に、災害情報の例を見ながら学んでいく。

続いて、避難についても考えていく。床上浸水に備える、非常持ち出し品を揃える、避難所に行く、と段階を追って考えていく。避難するときに注意すべき点などについても確認する。

日頃から自分の住居地区が、どのような地域なのか知っておくことも大切である。全国の自治体は「洪水ハザードマップ」の作成を義務づけられている。このマップにより、浸水想定区を知り、避難所や連絡先を確認すること。とはいえ、想定外の大洪水が訪れる可能性もある。マップはあくまでも自ら行動するときの参考にし、自助の能力を高めることが大切となる。また、水害に伴う土砂災害が起こる可能性のある地域なのかどうか確認し、土砂災害の前兆現象などについての知識を持つこと。

また、大規模災害に見舞われた時は、地域住民が協力しあうことも大切。

大災害に遭ったときは消防、警察もすぐには動けないため、町内会、自治会などで自主防災組織をつくるなど、日頃の活動が大切である。最近、地域住民の防災意識を高める試みとして、災害の図上訓練であるDIGが注目されている。これは、大きな地図を囲み、地域住民が集まって我が町で起きうる災害、被害のイメージを具体化していくもの。災害に対する意識が高まり、地域の人々の出会いの場にもなっている。実際に、静岡県磐田市で行われたDIGの様子を紹介していく。

最後に、片田教授は次のように締めくくる。「防災意識が高くても人は逃げられないもの。この心理は誰しも持っている。自分の命を守るには、逃げようとしないうの心が最大の敵であることを意識することが重要なのです」

富士常葉大学環境防災学部助教授 小村 隆史
協力 岩手県立大学総合政策学部助教授 牛山 素行
国土交通省 河川局 河川計画課

プロデューサー・・・中鉢 裕幸 構成・演出・・・植村泰吉郎
田野 稔 撮影・・・家塚 信

制作協力・・・グループ現代

企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部

2006年作品

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪府北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区八丁堀16-10 〒730-0013 ☎082-511-2066
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101